

観察記録ノート

昆虫

長野県飯田市上郷でアオスジアゲハが発生

井原道夫

長野県内でのアオスジアゲハの発生状況は、井原(2001, 2002, 2005)でまとめた。長野県内では、最南部の天龍村では継続して発生しているが、それ以外地域では、数年に一度といった状況であった。

飯田市上郷においては、1980年と2004年の2回の記録があるが、2009年に再び発生を確認したので記録しておく。

【成虫】飯田市上郷黒田, 31.VIII.2009, 井原治文目撃。

【終齢幼虫】同地, 29.IX.2009, 井原道夫確認。

【蛹】同地, 12.X.2009, 井原道夫確認。

2009年9月29日に確認した幼虫は、10月2日に玄関の欄間枠下側で蛹化した(地上高2.5m)。他にも蛹があるのではと周囲を探し、玄関先のコンクリート製円柱上部で蛹化していた別の個体を確認できた。幼虫の生育状況から判断して、8月31日に目撃された成虫は、産卵に訪れていたものと思われる。

飯田市上郷黒田での発生は、植栽したクスノキで育ったものである。1980年の時は越冬の確認もできたが、2004年は7月中旬の産卵で、越冬はしなかった。越冬については最近の記録として、2001年の豊丘村がある(井原, 2002)。

引用文献

井原道夫, 2001, 伊那谷南部におけるアオスジアゲハの分布。

伊那谷自然史論集, 2, 55-58.

井原道夫, 2002, 長野県豊丘村におけるアオスジアゲハの越冬記録。伊那谷自然史論集, 3, 95.

井原道夫, 2005, 長野県伊那谷南部のアオスジアゲハの記録Ⅱ。伊那谷自然史論集, 6, 131-132.

(いはら みちお/〒395-0004 飯田市上郷黒田571)

ギフチョウの蛹化場所

井原道夫

飯田市でギフチョウの羽化殻を確認することができたので報告する。

2009年4月29日 飯田市竜丘上川路 羽化殻を確認(図1, 2)

4月19日に『飛んでいるギフチョウを見る会』が行われた。その時羽化直後の♀個体を目撃することができた。蛹化場所を確認することができるのではないかと、成虫が静止していた付近を調査したところ、羽化殻を見つけることができた。場所は枯れ葉に埋もれたなかにあった小枝(地下茎)の下側で蛹化していた。地表5cmほどの位置でありわずかな空間が保たれていた。蛹化位置の近くには食草であるヒメカンアオイは見あたらず、かなりの距離を移動した後で蛹化したと思われる。



図1 ギフチョウの蛹化位置(↑)(2009. 4. 29)



図2 羽化殻

筆者は浜正彦氏とともに、1982年4月11日に下條村阿知原で落ち葉の間より羽化殻を見つけた事がある。この時も羽化直後の成虫を目撃したことで付近を探し見だしたものである。

野外での蛹化場所に関する報告はあまりなく、近くの例として、泰阜村で1993年と1994年に木下美恵子、ひろみ親子が蛹化場所を発見(野牧・木下, 1995)がある。「枯れ葉の裏でじっとしているのを見つけた」とされているがそれ以上の記述はない。その他に地面に半分埋もれた切り株の側面・コケのなかなど(多賀, 2000), 石の下側(夏秋, 1988; 竹内, 1999, 2008), ササの一種の地下茎についた例, マツの樹皮と樹皮の間についた例(難波ほか, 1989)など数例が知られている。

引用文献

- 難波通孝・三宅誠治・吉田善夫, 1989, 生態写真集ギフチョウを追って - 岡山県苫田郡奥津町における観察記録 -, 丸善.
- 夏秋優, 1988, ギフチョウの蛹化場所2例. 蝶研フィールド, 3 (4), 5-8.
- 野牧君夫・木下ひとみ, 1995, 長野県天龍村のギフチョウ. 昆虫と自然, 30 (4), 16-22.
- 多賀敏正, 2000, ギフチョウの蛹化場所の3例. 三重のメモ蝶, 33, 4.
- 竹内隆, 1999, ギフチョウの羽化をビデオ撮影. 月刊むし, 355, 12-13.
- 竹内隆, 2008, 野外におけるギフチョウの羽化観察. 月刊むし, 446, 18-21.

(いはら みちお/〒395-0004 飯田市上郷黒田571)

飯田市美術博物館でミスジチョウを確認

四方圭一郎

飯田市美術博物館は、飯田市の市街地に位置するが、この地域特有の段丘地形により、市街地周辺にも段丘の崖線部に成立した自然林が分布し、比較的豊かな自然環境が保たれているのが特徴である。これまでも興味深い種を四方(2004, 2005)で記録したが、新たにミスジチョウの発生を確認したので記録しておく。

ミスジチョウ 1幼虫, 10. III. 2009 (図1)

美術博物館に隣接する長野県消費生活センターの裏庭に植栽されたカエデで、越冬幼虫を発見した。この幼虫は越冬後も順調に生育して4月下旬に蛹化し、6月には羽化殻を確認した。

飯田市周辺においては、ミスジチョウは山麓部分以外で見かけることは少なく、このような市街地での発生確認は珍しい例だといえる。



図1 越冬中のミスジチョウの幼虫(ア)

引用文献

- 四方圭一郎, 2004, 飯田市美術博物館周辺で確認した昆虫類(鱗翅目・甲虫目). 伊那谷自然史論集, 5, 96.
- 四方圭一郎, 2005, 飯田市美術博物館敷地内で観察したチョウ類. 伊那谷自然史論集, 6, 151.

(しかた けいいちろう/飯田市美術博物館)